令和4年度 第2回 平野区教育会議 会議録

日時：令和5年3月10日（金曜日）午後7時00分

場所：平野区役所 1階 研修室

出席者：【委員】

稲垣委員 橋本委員 芳崎委員 宮本委員

箱谷委員 福井委員 大森委員

【オブザーバー】

川口 長吉南小学校校長 岡本 摂陽中学校校長 福井 長吉幼稚園園長

【平野区】

武市 区長 板橋 副区長 立本 こども教育担当課長

樋口 政策推進課長 松元 政策推進課長代理

上原 担当係長 鈴木

議題：「分権型教育行政」による区内の主なとりくみについて

新型コロナウイルスへの対応状況について

○立本こども教育担当課長

皆様こんばんは。

定刻がまいりましたので、ただいまから、令和4年度第2回平野区教育会議を開催させていただきます。

本日はご多用中にもかかわらず、夜間の時間帯にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日、進行を務めます、こども教育担当課長の立本です。

それでは、会議開催に先立ちまして、平野区長、平野区担当教育次長の武市よりご

挨拶申し上げます。

○武市区長

どうも皆様、こんばんは。区長の武市でございます。

年度末を迎えまして、それぞれのお立場で大変お忙しいところ、お時間いただきましてありがとうございます。

7月26日に開催しました第1回会議では、今年度の事業の概要を説明させていただきました。第2回目の今回は、それぞれの事業の結果と、来年度に向けての取組をご紹介します。

「読書ノート」は、今年はいろいろな学校や幼稚園に表彰状を持っていかせていただきました。6年目を迎えるということで、ある小学校の校長先生が、1年生のときから表彰状をもらっているので、6年間到達した子は6枚持っていますと言ってくださって、続けていくことの大切さを感じました。また、こどもたちから、前に読んだ本の題名を思い出せない時に、読書ノートを見たら分かるねんというお声も聞かせていただきました。今後もできるだけ続けていきたいと思う事業でございます。

また、2年間録画審査をさせていただいていました「英語スピーチコンテスト」も、今年度は区役所に来ていただいて、各部門の入賞者、上位3名ではありますけれども実際にスピーチを聞かせていただきました。年々レベルアップしてまいりまして、審査をするのも大変になってきているところでございます。

また新たな取組といたしまして、吉本興業さんと大阪市が連携協定を結んでおりますので「漫才ワークショップ」を、平野区の多くの学校で開催いたしました。私も1か所行かせていただきましたけれども、本当にこどもたち楽しそうで、人を笑わせるというのがどれだけ愉快的なことか、また実はとても難しいことかというのを実感して、コミュニケーションのスキルをアップさせる手段としては、本当に有効なものではないかなと感じさせていただきました。

来年度は、ゲストティーチャー制度をもっと充実させたりであるとか、平野区に多

い、若年妊娠による貧困の連鎖を防ぐために、出産など命にまつわる講義を行うような「いのちの教育」を充実させていくこと。またヤングケアラーのことなど、子育て支援体制についても強化してまいりたいと考えております。

めざす将来像の実現に向けて、区役所もしっかり取り組んでまいりますので、この会議が、区民の皆様と区役所、学校園の連携を深めるための有効な時間となりますように、活発な意見交換をお願いしたいところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○立本こども教育担当課長

続きまして、本日の出席者の紹介となりますが、2回目となりますので、2ページの座席表をもちまして、委員の皆さんの紹介とさせていただきます。

なお、本日は長吉南小学校から川口校長先生、摂陽中学校から岡本校長先生、長吉幼稚園より福井園長先生にご参加いただいております。ご紹介申し上げます。ありがとうございます。

また、教育会議につきましては、原則公開の会議で、一般の方の傍聴や報道機関の取材も可能となっています。

また、本日の会議内容は、区役所ホームページ等で公開する必要があることから、会議の録音を取らせていただきます。

なお、本日は傍聴並びに報道機関の取材はございません。

それでは、以降の議事進行につきましては、大森議長をお願いいたします。

○大森議長

それでは、議事を進めてまいります。

お配りされているレジュメの次第に沿って、区役所のほうから資料の説明をお願いしたいと思います。

○上原担当係長

皆さん、こんばんは。平野区役所の上原です。

「読書運動」から「英語スピーチコンテスト」までの5項目を、説明させていただきます。

6ページをご覧ください。今年度の「読書ノート」の表彰者数は、小・中合わせて2,043名となりました。小学生だけでは1,998人と、昨年度の2,278名からは200名以上少なくなっています。

理由としましては、令和2年度・3年度は感染症対策で休校等も多く、その間の読書の宿題とか外に出られないといった状況もあり、この2年間は読書量が増えたと考えております。実際に、各学校や図書主任の方にお聞きしましても、運動場で遊べるようになったため、昼休みの図書室の利用なども減っているのご意見もございました。

コロナの影響が少なかった令和元年度と比較しますと、100人弱増えております。平成30年度と比べますと、人数は200人近く減っていますが、一方で、小学校の児童数が9,033名から、令和4年度8,026名と、1,000名近く減りますので、表彰者数を全児童数で割った表彰率は、令和元年度の21.6%から、今年度24.9%となり、平成30年度と比べても、増えております。

この「読書ノート」を始める以前、平成28年度以前に、大阪読書推進会で行ってました「読書ノート」に申し込み、学校単位で読書運動を展開している学校も、区内に複数ございました。そのときの表彰率が大体5%程度であったことを考慮しますと、24.9%はその5倍の数字であり、4人に1人が表彰されています。

区・学校・地域図書館が一体となって行った読書運動の効果があったのだと考えております。皆様のご協力に本当に感謝いたします。

7ページには、到達者数並びに到達率のベスト10を記載しております。1位は5年連続で瓜破西小学校になりました。また、昨年度から読書推進にご尽力いただいております、喜連北小学校さんが初めてベスト3に入られました。

次に、「がんばる小学生がんばる中学生表彰」にまいります。8ページをご覧ください

さい。今年度の表彰内容を記載しております。ロータリー賞の項目に「○」がありますのは、合わせて大阪平野ロータリー賞をいただいた学校になります。大阪平野ロータリー賞は、ロータリーの趣旨に合う社会貢献の行いに贈られます。

続きまして9ページに、「学校図書館ボランティア区長表彰」並びに「こども見守り隊区長表彰」のリストを付けております。「○」印が今年度申請されました学校です。基本的には読書ノートと同時に、各学校で区長・副区長から表彰いたしました。

「広報ひらの」の今月号、3月号では、読書ノートの表彰やこども見守り隊の表彰を事業内容と合わせて1面で紹介しております。今年度の見守り隊のメンバーが、昨年度の2倍に増えたことと、今年度最初に区長表彰を行った学校であることから、川辺小学校での表彰を紹介しております。

次に、「ゲストティーチャー制度」にまいります。10ページになります。昨年度の実施件数は1件でしたが、今年度は本日行いました「いのちの教育」を含め、既に9件実施いたしました。

長吉中学校での実施が多くあります。感染症の影響で、職場体験の受入先であった高齢者施設や保育園の受入れが難しくなりました。平野区役所でも、近隣の平野中学校や平野北中学校さんから職場体験の受入れを行っています。以前は数名程度でしたが、今年度はできるだけ多く受け入れてほしいとの依頼から、20名弱の受入れを行いました。

職場体験先の減少傾向は、高齢者施設の多い長吉地域では特に顕著で、受入先の不足から、長吉中学校では職場体験の代わりに、できる限り多くの職種の方のお話をお聞きすることとし、5限目・6限目で、生徒に5人のゲストティーチャーの方から2人を選択して、授業を受ける形で年2回実施されました。

また、11ページの資料にありますように、平野区は10代の出産、それも予期しない出産の多い区でもあることから、平成30年度に整備し、令和元年度に開始したものの、感染症の拡大で休止状態になっておりました「いのちの教育」につきまして

も、再度告知を行い実施していく予定でございます。本日昼には、そのテストケースも兼ねまして、瓜破西中学校で、民間病院のご協力の下、実施いたしました。

次に、12ページをご覧ください。「英語スピーチコンテストの結果」でございます。これは8年目になりますが、今年度の参加者数は3部門合わせて58名と、最多であった昨年度の43名を大きく上回る申込みがございました。

本事業は、先ほど区長挨拶にもございましたが、令和元年度までは実際に来ていただいて舞台上で発表、感染症が拡大した令和2年度・3年度は、全て動画審査で行いました。今年度は、予選を動画審査で行いまして、上位3名に区役所に来ていただき、舞台上で発表を行い、その結果で1位から3位までを決定いたしました。

入賞者の在籍校が下の表にあります。小学校低学年の1位が大教大付属、2位が加美南部小学校、3位が加美小学校。高学年につきましては、1位が加美南部小学校、2位が長吉出戸小学校、3位が今回同率で2名となりますが、瓜破西小学校と加美南部小学校。中学校につきましては、1位・2位が瓜破西中学校、3位が長吉西中学校と、公立小中学校が頑張っております。

平成27年度の事業開始から監修いただいております、東京大学のスピーチコンテスト審査員でもある、常磐会学園大学のアレックス教授からも、参加者数、参加者の力量とも年々向上していると言われております。

本5項目の説明については以上です。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○大森議長

ありがとうございました。ただいまの説明に関しまして、ご意見やご質問のある方、おられますか。

○稲垣委員

民生委員の稲垣です。よろしくお願いいたします。

読書運動のこと、今お聞きしましたが、私の住んでいる校区のこどもたちも頑張ってはくれています。3月に小学校からいただいた「読書が好きであるかどうか」と

いうアンケートでは、「あまり好きでない」とか、「好きじゃない」という方がやっぱり2割強ぐらいおられます。こういう子たちにも、何か喜びが与えられるような方法がないかと思います。無理やり本を読ませても身には着かないと思いますので、何かいい方法はないでしょうか。

○立本こども教育担当課長

読書を勧める楽しい取組ということで、例えば「ビブリオバトル」というのがあります。ご存じかと思いますが、こどもさんたちがそれぞれ自分の好きな本をお友達に紹介して、最も読みたくなった本をこどもたちが投票して、1位を決めるなどゲーム性を持たせており、区内でも複数の学校が実施しております。

また、学校によっては図書館まで行かなくても、そのときどきの、人気のある本を先生がセレクトして教室の前に本棚を作って置いてあるとか、地域によっては校門に入ったところに、移動図書みたいな感じで図書コーナーを作るなど、いろいろな工夫をされておられます。図書ボランティアさんがお声がけいただいて、純粋に本を読む目的ではなくても、居心地のいい居場所として図書館が機能している学校もあります。加美では図書館をサロン風にして、こどもらがゆっくりくつろげるような改装を行った小学校もございます。

そのような取り組みを、ほかの学校や地域にも、共有できるように、これからも努めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○大森議長

よろしいですか。各学校や地域、図書館で工夫されているということですね。

はい。どうぞ。

○福井委員

公募委員の福井みゆきです。

読むことが困難なお子さんもいらっしゃると思うので、そんな方も参加できるように、音声教材を各学校に用意してあげたら良いと思います。いろいろなタイプの音声教

材が出ていますし、国会図書館から無料でダウンロードできる仕組みもあります。LD学会でも発表されていきましたので、そういう情報等も各学校で共有されて、図書館司書の先生方のご協力も得て、読むのがしんどいけども、読んでみたいこどもさんのサポートに力を入れていただけたら、その2割とか、ちょっと読むのがしんどいなと思っているお子さんたちも、本を読んでいろいろな知識や情報を得ることができると思います。

あとICT、Padを利用して、音声で読んだりもできると思うので、その点もまた工夫してあげたら良いと思います。よろしくお願いします。

○立本こども教育担当課長

非常に貴重な視点のご意見、ありがとうございます。どこまで各学校で音声教材等を取り組まれているかを調べて、好事例があれば共有化して、全てのお子様が読書に取り組むことができるように、努めてまいりたいと思います。

○大森議長

ありがとうございます。読むのが苦手なこどもも、耳で聞くことで読書に興味をもっと示すのではないかと。また、ICTを活用することで、その音声の教材をもっと広げることができると。小学校等で検討していただいたらということですので。福井さん、どうもありがとうございました。

いかがでしょうか。ほかに皆さん、ご意見、質問ありましたら。

では、またありましたら、後ほど言っていただくということで続けさせていただきます。

では、次の説明をよろしくお願いします。

○上原担当係長

それでは続きまして、残りの5項目について説明させていただきます。

13ページをご覧ください。「こども学力サポート事業」につきましては、小学校やこどもの居場所等に、学生等を指導員として派遣して児童の学習を支援する事業で

ございます。資料では令和3年度の実績を記載しておりますが、今年度も昨年度と、ほぼ同様の実績になる予定でございます。

民間事業者を活用しました「課外学習支援事業」につきましては、長吉西中学校で行っております「なかよし塾」と、夏季・冬季の短期間、区民センターで行いました「ひら塾」がございます。なかよし塾は、昨年度に比べて参加者数が急減しており、来年度に向けて民間事業者並びに学校と運営方法について、今、検討を行っております。ひら塾に関しましては、令和2年度・3年度につきましては、感染症の拡大もあり実施できなかったのですが、今年度は夏季・冬季と実施いたしました。しかしながら、夏季は7月と8月の合計で14名、冬季は3名と参加者が非常に少なく、民間事業者の損益分岐点が20名以上の確保となっていることから、来年度は公募しても応じていただける事業者が現れない可能性も高くなっております。ちなみに、令和元年度は、夏季は合計で46名、冬季は25名の参加がありました。

業者や参加者、学校などへのヒアリングでは、バウチャーの上限1万円で受け入れていただける民間塾が、数年前に比べかなり増えたとお聞きしており、ひら塾でなくても1万円で行ける塾が増えたことが、大きくニーズが減った理由ではないかと思われれます。

一方で、この4月からバウチャーの対象が中学生だけから小学5年生・6年生にも拡大されます。小学生の場合、校区外に行くには基本的には保護者の同伴を求めていますので、どこかの学校や場所で集中的に行うことは難しく、オンライン授業などの活用を含めて、来年度の開催方法等を学校や事業者と検討して進めてまいりたいと考えております。

次に、「こどもの生きる力育成支援事業」でございます。14ページをご覧ください。こちらは、不登校や引きこもり等の児童・生徒を、学校・子育て支援室・その他関係機関等と連携しながら、対象生徒の学力向上・意欲向上などを支援する事業でございます。こちらも昨年度実績を記載しておりますが、今年度もほぼ同様の数字とな

る見込みでございます。

次に15ページ、「漫才ワークショップ」でございます。大阪市と包括連携協定を結んでおります吉本興業様のご協力により、今年度から新事業として始めました。吉本の芸人さんやシナリオライターが小学校を訪れ、児童に漫才を教えることで表現力の養成、コミュニケーション能力の向上などをめざすものでございます。平野区では既に6校で7回実施しており、まだ1回も行っていない区も多い中、最も本事業を活用している区となっております。学校からは、普段ほとんど発言できない児童が大きな声で発表するなど、こどもたちが主体的に学ぶアクティブ・ラーニングの1つとしても有効ではとのご意見もお聞きしております。

本事業は、吉本興業さんに無償で行っていただいております。次年度も継続していく予定でございます。

続きまして、「区教育施策の広報」でございます。16ページをご覧ください。「広報ひらの」の9月号から、各学校で行っておりますSDGsの取組を、区の教育事業なども含めて広く紹介しております。16ページでは、食品ロスを減らす取組。また、いじめ防止の啓発運動。17ページは、動物・作物などを通じての循環型社会の取組。18ページは、先ほどの漫才ワークショップ。そして19ページは職場体験。そして20ページは、幼稚園での自然とのふれあいの取組。21ページは、先ほど触れました読書ノートなどの表彰を紹介しております。

次に、22ページをご覧ください。「平野区の住みます芸人」が、お勧め図書を紹介する書評コーナーを、8月に「広報ひらの」に新しく設け、現在連載しております。23ページ以降に、最新号までの内容を添付しております。

「読書ノート」を平成29年度に始めたときに、この教育会議の場で、児童生徒に読書の大切さを伝えるだけでは不十分で、父母や祖父母など、保護者にも読書の大切さを広く区役所から紹介していただきたいとのご指摘を、当時の委員様からお受けいたしました。その対応としまして、読書の大切さを児童だけではなく、保護者にも理

解していただくために、区として広報を続けているものでございます。

私からの説明については以上です。

もう1項目、「こどもサポートネット事業」につきましては、立本課長より説明させていただきます。

○立本こども教育担当課長

27ページに、「こどもサポートネット事業」の資料が付いています。実は年中募集しているぐらい、「こサポ」は充足しておらず、最新の公募資料を付ける予定でしたが、明日が試験で皆様にお見せできないため、従前のチラシと事業の取扱要領を付けております。明日試験が行なわれ全員合格すれば充足しますが、それが無理な場合は、4月上旬に、次の募集をかける予定です。ホームページ等でもしご覧になられれば、知人の皆さんに、お声がけいただければと思います。

何度も説明していますが、この大阪市の「こどもサポートネット」は、平成30年、令和元年にモデル区7区で実施、平野区もモデル区として先行実施しました。区役所と学校が連携して、お子様や家庭に福祉の手ができるだけ簡単に届くように、保護者の中にはそうした手続きが苦手な方もおられますし、学校もたくさんこどもさんもおられ、それぞれに合った支援の仕方があります。そこで、こどもサポートネット推進委員が間を取って、必要な方に支援していく。見守りの中に、学校と区役所、さらには児童委員・民生委員さんの地域のサポートも重ねて、一体でチーム学校を応援していくという制度でございます。よろしく申し上げます。以上です。

○大森議長

今、「こども学力サポート事業」から、区長からも紹介がありました「漫才ワークショップ」、最後は「こどもサポートネット事業」について説明がありました。皆さんのほうからご質問、ご意見おありでしょうか。

○立本こども教育担当課長

補足になりますが、22ページの「広報ひらの」の記事をご覧ください。ちょっと

小さいですが、武市区長と、本日ご参加いただいております橋本前PTA会長の記事を載せております。PTAとして、全ての学校に図書を寄贈していただきました。PTA活動もコロナ禍の影響で多くのイベントができないため、いろいろな支援を各地域で行っていただいています。その一環として、すぐにでも読みたくなるような人気のある図書ばかり集めて、小学校・中学校・幼稚園に寄贈いただきました。もう既に図書館にある本もありますが、ボロボロになるぐらい人気があるということで、寄贈いただいた本もあります。学校からはとても感謝しているということでしたので、ここで紹介させていただきます。ありがとうございました。

○大森議長

ありがとうございました。今「広報ひらの」の8月号、議長と橋本様の写真も載っていることをご紹介いただきました。本を寄贈されて、こどもたちがそれを楽しんでいるとのことです。

ではいかがでしょうか。ご質問、ご意見おありでしょうか。よろしいでしょうか。

○福井委員

福井です。地域による支援の報告なのですが、放課後デイサービスとか児童発達支援の団体とかとの連携も含まれているということではないのでしょうか。

○立本こども教育担当課長

はい。支援の実施者として、学校にはなかなか行けていませんが、デイサービスを利用している方は、ケースに応じて、個別ケース検討会議にも参加いただいております。10年前とは様相も変わってしまっていて、放課後デイの利用がしやすくなったということで、各学校の先生方にもご協力いただきながら、違う居場所ということで、我々も支援のメインの中に積極的に入れていっております。以上です。

○大森議長

放課後デイサービス、学校とはまた違ったところでの居場所づくりにも努めておられるということですね。福井さん、そういったことで、よかったですでしょうか。

はい。では、続いてほかにご質問、ご意見いいでしょうか。

もしございましたら、また後ほど、ご質問、ご意見伺いたいと思います。

続きまして、新型コロナウイルス感染症の対応状況について、少しご説明をお願いしたいと思っています。できれば幼稚園のほうから、説明をお願いしていいでしょうか。

○福井園長

長吉幼稚園園長の福井です。いつもありがとうございます。

今現在のコロナ感染の対策等で、よろしいでしょうか。

○大森議長

はい。多分収まってきているとは思いますが、経過も含めて、今の状況をご説明いただけたらと思います。

○福井園長

はい。幼稚園は学校と同じように、新型コロナウイルス感染症マニュアル、教育委員会から通知が来ているマニュアルに準じて感染対策を行っているところです。今、国では、3月13日から個人の判断でマスクを外しても良いと言われていますが、まだそのマニュアルも新たな通知もありません。幼稚園は保育終了式が3月16日にあります。その終了式当日についてのマスクの取扱い通知は既に来ております。ここでは、こどもたちは基本的にはマスクを外しても差し支えないということ、教職員も同じ扱いとなっております。ただ、歌を歌うとか、複数のこどもたちが話をするときは、マスクの着用のご協力お願いしますとなっております。保護者の方にも、その旨、お願いしているところです。

コロナ禍は昨年度と同じですが、今年度は園外に出ることも可能になりました。昨年は園外の方との交流は難しかったのですが、今年度はこどもたちも園の外に出て、地域の方、高齢者の方と触れ合ったりとか、あと小学校にも授業参観に行かせていただいたり、この前は給食も実際に見ることができました。5歳児のこどもたちも写真ではなく、実際に小学校に行って施設を見て、1年生が積極的に年長のこどもたちに

誘いかけてくれる優しい姿も見せてもらったことで、小学校進学前に、安心感とか期待感を持って過ごすことができていると思っています。

園外の方と関わることは、人への信頼感であるとか、人と関わるのが楽しいという、こどもたちにとって、すごくいいことがたくさんあると思っていたのですが、その交流の相手の方にとっても、いいことがたくさんあります。高齢者の方はこどもと接すると元気が出ます。今年は高校生とも交流しましたが、高校生はもう間もなく大人になる年齢で、でもなかなか今の生活の中で幼児と関わることはなかったので、幼稚園に来て幼児と関わることで、こどもって、1人1人すごく違うし、こんなところで困ったりすることがあるなど、幼児理解もでき、高校生にとってもメリットが多いことも教えていただきました。こうして実際に交流することは、お互いにすごくいいことがあるのだと改めて感じる事ができて、やはり対面で会うというのは大事だと思っています。以上です。

○大森議長

ありがとうございました。福井園長から、こどもたちの様子を語っていただきました。感染症に関しましては、おそらく、幼・小・中・高・大に至るまでで、今言われた13日からの対応通知が厚労省、文科省から出ております。文科省のほうは、卒業式については、マスクは外してもいいですよと、むしろ外してくださいと。歌などのときは着けてくださいという通知が来ております。そこについては、小学校も中学校も一緒だと思います。

重ねて福井先生から、今、園外、地域の人とこどもたちが関わるができるようになったと。また小学校とも交流ができています。高校生は、幼稚園の子と関わることで、優しさとかそういうものも、きっと膨らませていくのかなと思います。小さい子って、見ているだけでもかわいいですからね。高校生の人たちもかわいいと思われたでしょう。ひょっとしたら、それがキャリア教育にもつながるかなと思います。

そうしましたら、今度は小学校、コロナの状況もありますが、できましたら、こど

もの状況も含めて、お話しただけたらと思います。

○川口校長

長吉南小学校の川口です。よろしく申し上げます。

今は、コロナで休む生徒よりも、インフルエンザで休む方が多いかなという現状です。

今、現場で混乱していることを言わせていただきますと、コロナであれば濃厚接触者で兄弟も来てはいけませんとなります。インフルエンザは、コロナ前は特に質問もなかったのですが、最近では、保護者から、兄がインフルエンザになったのですが、弟は行ってもいいですかという質問が多くあります。インフルエンザは濃厚接触の規定はないため、症状がなければ、学校に来ていただいています。しかし、保護者の方には戸惑いがあります。

あと先ほど大森議長にも言っていただきましたが、厚労省は3月13日から、文科省は3月31日、4月1日に新しく通知を出します。3月31日までは今までどおり。2類から5類への変更が5月8日ということなので、学校現場も混乱しています。3月13日から、社会的にはもうマスクは外してもいいとなっていますが、卒業式は児童と教職員は、マスクは外しましょう。でも保護者は着けさせてくださいとの通知が来ています。社会的に外していいのに、保護者に着けさせるということも、難しい。マスクについても今までは、これをするから外しましょう。例えば熱中症の心配があるので、外遊びは外しましょうでしたが、ここに来て、国歌斉唱なので着けましょうとなっています。今までは、これは例外だから外しましょうという教育でしたが、今後は、これをするから着けましょうとなります。やはり5月8日までは、混乱はあると思います。

ただ、園長先生もおっしゃったように、これからは地域の交流もできるとのことで、地域の方も喜ばれていますし、学校もありがたいと話しています。ただ、この3年間という空白があるので、改めて学校も行事をどうしていくか、今までやってきた、コ

ロナ前からやってきたから「継続」では、なくなってきましたので、その辺りも整理していく必要があります。令和5年度は、混乱もありますが大切な時期だと思っています。

○大森議長

ありがとうございます。今、国の動向ですね、厚労省や文科省の動きも重ねて伝えていただきました。学校現場はマスクについて、どう対応したらいいのかと、卒業式もあり、混乱している状況もあるということです。

ですが、全体としては、コロナがインフルエンザと同じ扱いに段々なっていっていくという状況ですね。逆にインフルエンザにかかったら、兄弟は行ってもいいのかなという、コロナの慣習がインフルエンザにも影響している状況も起きているとのことです。

だけど、今まで3年間、地域と交流できなかったこどもたちが、交流できるようになったことは、幼稚園と同じく小学校でも、共にいい関係を回復していきます。より大きな成果をめざしていきたいと報告していただいたと思います。ありがとうございました。

それでは最後になりますが、中学校のほう、よろしく願いいたします。

○岡本校長

失礼します。摂陽中学校の岡本です。よろしく願いいたします。

本日は公立高校の入試でした。本校では入試を受けられない生徒はいなかったのですが、他校ではコロナやインフルエンザで後日受験はあったようです。10人近い生徒が受けられなかった学校もあり、コロナよりもインフルエンザが理由の生徒が多いと聞いております。

来週の火曜日が、中学校の卒業式になります。今の中学3年生は、小学6年生の最後のときにコロナで学校休業になり、突然2月に学校生活が終わり、練習もなく本番を迎えた卒業式になりました。その子らがちょうど今の中学3年生で、今回やっと卒

業式が正常に近い形で行えることになりましたので、昨年までは代表にしか卒業証書を渡していなかったのですが、今年度は、卒業生150人全員に1人ずつ渡すことにして、小学校の分も一緒にお祝いしようとしています。

今年度は全ての行事がほぼできました。ただ気になるのは、様々な事情でマスクを外せない生徒も居ることです。例えば給食のときでも、ちょっと上げて食べてすぐ閉めるという子が数名います。今は、長距離走、マラソン大会に向けて練習していますが、マラソンをするにはマスクは外さないといけないのでとなると、外したくないから見学にする生徒がやはり数名います。そうした点が来週以降、また4月以降、普通に行えるのかどうか、少し心配なところですが、以上です。

○大森議長

どうもありがとうございました。今、岡本校長先生から、中学校の状況を話していただきました。公立の高校入試、コロナというよりもインフルエンザで受けられない子がいましたということです。

それから、卒業式については、中学校は14日の火曜日に行われると。卒業する子供たちは、小学校6年生のときに2019年ですね。令和元年の12月から、中国からコロナの感染症が伝わり、やがて全世界に広がり、3月には日本国内も全校一斉休校という事態になりました。その子供たちです。そのまま中学校へ入って3年間過ごしてきた。そういう意味ではコロナという壁で大変、苦勞したこどもたちかとも思います。その子供たちが卒業を迎えるにあたり、校長先生から150人のこどもに、1人1人手渡しで卒業証書を渡すことができるようになりましたと。

しかしながら、今言われた、コロナの弊害の1つとしてマスクですね。外せない。私も、自分の学生、マスクを皆着けており、その子の素顔を見たことがありません。幼稚園などでも、そういうこともあるのだと思います。また、マスクを外せないからマラソンを見学してしまう子まで出てきていると。それも、本当に弊害かなというふうにも思いました。

3人の園長先生、校長先生、どうもありがとうございました。

今の学校の様子を受けまして、最後全体を通して、質問やご意見がございましたらお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。いかがでしょうか。

それでは、皆さんのご意見がなければ、教育会議を、ここで終了させていただきたいと思います。

皆様からは、いろいろなご意見、ご質問もいただき、ありがとうございました。円滑な議事進行にご協力いただきまして終わることができました。ありがとうございました。

司会のほう、教育担当課長にお返ししたいと思います。

○立本こども教育担当課長

大森先生、議事進行、ありがとうございました。

では最後に、副区長の板橋よりご挨拶申しあげます。

○板橋副区長

皆さん、こんばんは。副区長の板橋でございます。

本日は限られた時間ではございましたが、本当にありがとうございました。様々なご意見をいただきました。

また年度末の、また夜間という大変お忙しい時間帯にご出席いただきました委員の方々、また円滑な議事運営にご協力いただきまして本当にありがとうございます。

また大森議長、箱谷副議長につきましても、本当にありがとうございました。

本日、区役所の今年度の取組につきまして、実施状況等についてご報告をさせていただきました。こどもサポートネットなど、こどもたちを支える、サポートするような事業、またそれ以外にも、こどもたちの興味関心の機会を作っていくような事業、そして、それを継続していけるように表彰という取組をこの間継続して、またブラッシュアップして取り組んでいるところでございます。特に読書運動に関しましては、

小学校の読書にあまり興味がないというお話をきっかけに、各学校や図書館での取組もご紹介させていただきました。また、読むことが困難な子どもたちに、こういった対応ができるのかというような貴重なご提案、ご意見もいただいたと思っております。

我々としても、いただいたご意見を真摯に踏まえて、また取り組んでまいりたいと思っております。

また、学校園のオブザーバーとして参加いただいた先生方からは、コロナの状況などを説明いただきました。数としては減ってはきているものの、まだまだ混乱があるということで、特に幼稚園や中学校では、このコロナ禍の中で入学・入園して、その状態のまま卒業していく子どもたちがいるということ。2か月後には2類から5類に落ちるということではありますけれども、この3年間のコロナによって、子どもたちに傷跡という言い方はちょっと語弊があるかもしれないですが、やはりいろいろな影響が残ってくると思います。今後もそうしたところを区役所としても、また地域の方、学校園の方、またこういった機会を通じて、いろいろな意見交換をしながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

本日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。

○立本子ども教育担当課長

今後とも皆様におかれましては、平野区の教育施策にご協力いただきますよう、よろしく願いいたしまして、平野区教育会議を終了いたします。

本日はありがとうございました。

以上